

神奈川の風



平成28年2月1日号

校長 吉江 明洋

< 如月 2月3日は節分 >

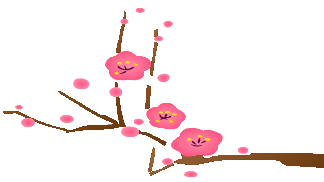
早いもので気がつけば今日から如月(2月)。明後日3日(水)は節分です。二十四節気に含まれない雑節となっている「節分」は、季節の移り変わる時という意味で、年に4回「立春・立夏・立秋・立冬」の前日を指していました。その中でも特に立春が一年の初めと考えられることから、しだいに節分といえは春の節分を指すようになりました。



立春からを新年と考えれば、節分は^{おおみそか}大晦日にあたり、前年の^{じやき}邪気を払い春を呼ぶ行事として中国で始まり、日本でも平安時代から^{きゅううちゅう}宮中で「豆まき」が行われるようになり一般に広まりました。豆まきは年^{としおとこ}男や一家の主人が豆をまき、家族は自分の歳の数だけ豆を食べると、その年は無病息災とされています。

豆まきの他に、最近ではコンビニやスーパーで、節分に食べる^{えほうま}「恵方巻き」なる太巻寿司が流行していますが、^{はつしやう}発祥は江戸末期から明治初期頃に大阪船場の商人が商売繁盛を願って始まったようです。戦後は^{すた}廃れましたが、1970年代に関西の^{のり}海苔問屋協同組合が、海苔の^{はんばいそくしん}販売促進のために^{どうとんぼり}道頓堀で行った行事を^{しやうこん}マスコミが取り上げ、商^{びんじやう}魂たくましい全国の食品メーカーが便^{びんじやう}乗して全国に広まったようです。そういえば関東では恵方巻きなんて少し前までは聞いたこともありませんでした。ちなみに今年の恵方は^{なんなんとう}「南南東」です。

< 立春大吉 >



節分の翌日2月4日(木)は立春です。二十四節気のひとつで、^{とうじ}冬至と春^{しゆんぶん}分の間にあたり、冬と春の分かれる^{ふしめ}節目の日「春の季節の始まり」を意味し、立春から^{りつか}立夏(5月5日)の前日までが^{こよみ}暦の上では春となります。

関東地方もまだまだ寒い日が続いていますが、この日を境に南の地方から徐々に気温が上昇に向かい、^{につしやう}日照時間が目に見えて延びてきます。梅の木を始めとして、その他の木々も^{めぶ}しだいに芽吹き始め、どことなく春の気配を感じる日が多くなっていきます。

明治時代に^{かいか}改暦される前の旧^{きゆうれき}暦では、立春は正月とほぼ同じ頃に重なっていたため、現代になっても年が明けた正月に「新春」「早春」などの言葉が遣われます。

また、立春の早朝、^{ぜんでら}禅寺では^{やくよけ}厄除けのために門に「立春大吉」と書いた紙を^は貼る習慣があります。この^{えんぎ}縁起のいい文字は^{たてが}縦書きすると左右対称になり一年間災難に^あ遭わないというおまじないの意味があるようです。

2月の3年生は、私立一般や公立の入試・発表と落ち着かない日々が続きますが、全ての生徒が「立春大吉」となるよう先生方全員で応援しています。頑張りましょう！